

デジ教研文庫1 今なぜ「デジタル教科書」なのか

etextbook

みんなのデジタル教科書教育研究会ができるまで

「デジタル教科書を導入して【明治の学制改革】に倍する【教育の維新】を目指したいと思います。」原口総務大臣から、ツイートでこのような返信をいただいたのは、平成22年2月7日の朝だった。

「@kharaguchi ipad登場と原口さんのコメントでtwitterでデジタル教科書の期待が高まっています」との私のツイートに対する返信である。

政権交代をし、電子黒板が事業仕分けをされてしまった。情報教育を専門にする多くの教師は、ようやく実現に近づいた普通教室での電子黒板の導入が仕分けられてしまいがっかりした。自分も、その一人であった。確かにすごく高額な機械である。特別な補正予算でもなければ実現しようもなかった。それが、降ってわいたように実現しそうだったのだから、その反動での落胆は大きかった。

「また、十年はかかるな・・・。」そう思っていたところに、登場したのが、「原口ビジョン」である。

その中には、なんと、「2015年までに全小中学生に一人一台のデジタル教科書を実現」とある。

一人一人が端末としてもつデジタル教科書などというものは、これまで情報教育を専門でかなりやっていた自分にとっても、想像したこともない、まさに「晴天の霹靂」であった。

「そんなことがありえるのか？でも、国が知っていることだし・・・。」

半信半疑ながら、「もし、実現したら・・・」と想像を膨らませてみた。

一台の端末にすべての教科書が入っている。コンテンツには、動画や音声、フラッシュ教材がふんだんに盛り込まれ、子どもたちは、知りたいことをリンクでたどりながら学習を深めていく。調べたいことをネットで調べる。理解度を調べるミニワークテストを行い、すぐにその結果がグラフで出せ、どの子がどこでつまづいているかを掴むことができる。対策問題も、自動で出せる。学びの履歴が残り、子どもの伸びや課題が具体的に分析ができる・・・。

夢物語のようなことが次々と浮かんだ。

また反面、

「目は悪くならないのかな？」

「ネットに同時に接続なんてできるかな？」

など、否定的なことも少しは頭をよぎった。

いずれにしても思ったのは、

「これは、検討してあまりある提言だ」

ということだ。

よく検討して、実現できなかつたら仕方がない。しかし、これだけ大きな可能性を感じることを検討

もしないなんてもったいないことはできない。また、逆に現場の意見も聞かずに押しつけられてもこれは大変なことになる。導入するにせよ、しないにせよ、現場目線での相当な検討が必要だ。そして、できることなら、素晴らしいデジタル教科書を導入したいものだと考えた。

そう考えて、ツイッターでe_textbookというハッシュタグを起こし、呼びかけて見た。即座に数名から反応があり、議論は盛り上がり、約半年の議論が続いた。

そして、7月23日。

ツイッターでの議論を基に、「みんなのデジタル教科書教育研究会」を起こした。

これまでの半年にも及ぶ議論から、デジタル教科書が教育をよりよくしていく大きな可能性をもっているという確信が得られた。

それと同時に、その導入への難しさも感じた。だからこそ、より大きな議論・検討の場として、研究会を立ち上げた。

この本では、これまで議論になったことを受けて、導入に当たって考えていかなければならないことや、導入によって得られる効果、研究会のめざしていること、導入までの道筋などを中心に、今現在、考えていることをまとめていきたい。

ちなみに、研究会では会員を募集している。現在80名を越える会員が、ネット上で議論を交わしている。以下のブログを御覧いただきたい。

[「みんなのデジタル教科書教育研究会」ホームページ](http://e-textbook.blog.so-net.ne.jp/archive/c2301207441-1)

<http://e-textbook.blog.so-net.ne.jp/archive/c2301207441-1>

IPadとデジタル教科書議論

デジタル教科書は、IPadなんだろうという人がいる。だが、それは違う。

確かに、IPadは、デジタル教科書議論を牽引してきた。

デジタル教科書の議論が盛んになり始めた頃は、ちょうどIPadの話題が盛り上がった頃だ。

電子書籍リーダーとしてのIPadの可能性が語られ、また、IPadは教育での活用も指向しているとの話が出て、IPadではかなり電子教科書的な使い方ができるのではないかと考えられるようになった。

実際、孫さんも、デジタル教科書のイメージモデルとしてIpadを使って説明している。

IPadが、デジタル教科書に期待をいだかせたのは、言うまでもなく「タッチデバイス」という点だ。

4歳の子どもでも、IPadは直感的に使いこなせる。

小学校の低学年から導入しようとするならば、IPadのような「タッチデバイス」であることは不可欠だ。

ただ、キーボードがないと、学習には使いづらいという指摘も一方である。

キーボードと併用がよいという意見も根強くある。

この辺りは、今後議論として詰めていく必要があるが、どちらの論者も「タッチデバイス」であることは共通して認めている。

また、IPadが、デジタル教科書のイメージとつなげられやすいのは、すでに、iPhoneのアプリを授業で活用している教師が少なからずいることもあるだろう。

その延長上に考えると、使用上のイメージが沸くのだ。

私も、5月にIpadを手に入れた。

手に入れてみて、これであれば、簡単なデジタル教科書はすぐにでもできそうな印象をもった。

しかし、実際には、まだデジタル教科書のモデルを作成するといったことはしたことがない。

今後、実際にIPadを使った、実証授業も試みられてくると思う。

みんなのデジタル教科書教育研究会の活動ビジョン

みんなのデジタル教科書教育研究会では、様々な活動アイデアが出てきている。これらのアイデアの中には、すでに実行されているものもあるし、これからのものもある。アイデア倒れになるものもあるだろうし、大きく育つプロジェクトも出てくるだろう。とにかく、色々なことをやってみて、その中から新しい何かを見つけていきたいと考えている。如何に、現在出ているアイデアを示す。

- ・ 掲示板での議論

デジ教研の活動のベース。どうまとめとして残して行くかが課題。

IT支援モデルプラン、各教科等、使用場面ごとの活用モデルプラン、デバイスモデルプランを議論するベース。

- ・ U s t での放送「デジ教研live」

月2回以上行い、デジタルアーカイブを増やしていく。

エンタメ性と、研究を両立する？

広報活動を兼ねる。

- ・ 「デジタル教科書」マインドマップ作成

テーマを決めて、月に一枚のマインドマップに。

集団がいいのか、個人で作ってもらうのがいいのか、両方が検討する。

- ・ 電子書籍出版→この本もそう。

雑誌をつくる。ミニコミ紙。リーダー、担当者など募集中

小さなまとまりごとに成果をミニ本として、まとめていく。

毎月、一冊形にしていく。雑誌の様に。月一で発刊。

活動のリーダーに原稿依頼。

今月の活動紹介。巻頭言。デジタル教科書を取りまく動き。今月のデジ教研liveから、りんさん？今月の議論から？月一マインドマップ？四コマ連載？など？

分担して、原稿を書く。毎月25日〆切。1日発行。

ミニコミ紙。100円程度？あるいは広告をとり活動費にする。それとも完全無料？バブー使用。

- ・ NPO法人化 IT支援事業→当面はIT支援プラン作成事業 リーダー募集中

どのような支援が必要かをモデルプランとして作成し、発表する。

提言として、どの様にだれに対して出していくかは、今後の検討課題。

NPO法人化できるか、必要かの検討。可能性は否定しない。

- ・ 各教科活用モデル作成事業 リーダー募集中 現場の教師が望ましい

教科ごとに、学年毎に活用レシピを蓄積する。

ウェブで公開するとともに、教科書会社に提案する。場合によっては連携し、コンテンツ作成に協力してもらう。

教科ごとにプロジェクトを組むか、月毎に一つずつやっていくか。

現場教師にプロジェクト長をしてもらう。

指導書と対応して行なう。

- ・ アプリ作成・発掘事業

各教科活用モデルに即したアプリケーションを作成する。

すでにあるアプリケーションで使えるものを発掘してリンク集をつくったり、評価をする。

- ・ 実証研究事業

協力企業を募集する。

協力メンバーを明示する。自己アピール文をwebアップ

- ・ デバイスプラン作成事業

掲示板で、議論をしプラン化する。

プランは複数あってもよい。あった方がいいかも。

そのプランを採用したときの、メリットとデメリットも明示する。

DiTTに提案する。

ツイッターでの議論と研究会での議論の違い

ツイッターでは、2月はじめから7月の研究会発足までe_textbookというハッシュタグで議論を続けてきた。

いやデジ教研发足後の8月の今も、e_textbookのハッシュタグでの議論は継続して続いている。デジ教研に入っていない人だけでなく、デジ教研に入った人でも、未だにそちらを頻繁に利用している。

かくいう私も、そちらもいまだに利用している。

なぜか？

ツイッターでの議論には、研究会にはない魅力があるからである。

まず、140字という文字設定が、議論をタイトにしてくれる。

次に、ツイートはいつも行うので、その時にハッシュタグを覗いて書き込みがあるとなつて参加をしたくなるのである。

私の場合は、さらに、デジ教研の活動について紹介をして、新たなメンバーを勧誘するという宣伝に使用することもある。

一方で、研究会の議論の魅力はさらに大きい。

まず、文字数の制限がないので、さらに詳しくじっくりとかける。

次に、話題ごとにスレッドを立てられるので、議論を継続的に深めていける。

議論以外の活動を組むことができる。例えば、Ustでの放送や、電子図書出版などである。これから、これらの活動をさらに発展させていく。

ということで、ツイッターの議論も継続しつつ、研究会でさらに発展させていくという状況が今なのである。